モード・バーロウ

水が危ない！

日本語ブックレット版　ＮＬ０２４

モード・バーロウ：水が危ない！

（2008年2月27日に放送）

翻訳：小田原 琳

© 2013 デモクラシー・ナウ！ジャパン

***モード・バーロウ（Maude Barlow）：**

グローバルな水の正義を求める運動の活動家。カナダ最大のアドヴォカシー団体「カナダ人評議会」の代表で、「ブループラネットプロジェクト」の創設者。『BLUE GOLD—独占される水資源』や『"水"戦争の世紀』など著書多数。もうひとつのノーベル賞として知られるスウェーデンのライト・ライブリフッド賞（Right Livelihood Award）も受賞している。2008年から2009年にわたり、水に関する国連初の顧問を務めた。最新刊は『ウォーター・ビジネス——世界の水資源・水道民営化・水処理技術・ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』。

字幕付き動画: http://democracynow.jp/submov/20080227-3

エイミー・グッドマン：カリフォルニア州からニューヨーク州までの米国の大手水道事業者8社が、気候変動対策で共同戦略を取ると発表しました。この新設の「水道事業者気候連合」は、加盟事業者全体で米国の3600万人以上の人々に水を供給しています。この連合が掲げる一連の目標には、気候変動に関する調査の拡大や気候変動に適応する方策の開発立案、個々の事業が排出する温室効果ガスの把握などがあります。

今日の番組では残り時間を使って、地球規模の水の危機について考えましょう。昨夜［2008年2月26日］ここニューヨークで、新作ドキュメンタリー映画『FLOW　水への愛』が上映されました。世界の水の供給がいかに減少しているか、そして水資源の民営化がいかに危機を悪化させているかを検証する映画です。

＜映画「Flow」から＞

ピーター・H・グレイク：実に長い間、水はタダだと考えられてきました。ほとんどの人たちは水がどこからくるかを考えることもなく、蛇口をひねれば出てくるものだと思っています。そんな時代はまもなく終わります。

モード・バーロウ：水は永遠であるという思い込みは誤っています。カリフォルニア州は、水を使い果たしています。20数年分の水しか残っていません。ニューメキシコ州はあと10年分なのに、猛烈な速さでゴルフコースをつくっているため、5年でなくなってしまうかもしれません。アリゾナ州やフロリダ州、五大湖地域でさえ新たに巨大な需要が生まれています。

グレイク：ナイル川は河口までたどり着きません。コロラド川や中国の黄河も、たいていは、もう海まで流れていきません。

バーロウ：こうした問題はどこか遠いところのものだという思い込みは捨てるべきです。頭から追い出して、消してしまってください。

パトリック・マッカリー：私たちは地球の水資源を軽んじてきた。とても愚かしいことです。私たちは水に依存しているのですから。生きるためには水が必要です。水なしでは、1日か２日生き延びるのが精一杯でしょう。

ウィリアム・E・マークス：数十年にわたる研究と膨大なデータを積み重ねて科学者たちが出した結論は、私たちは、地球上で起こる６度目の大量絶滅の危機に瀕しているということです。前回の絶滅は恐竜時代でした。

バーロウ：彗星が地球に接近する映画がありますよね。突然世界中の政府が言うのです。「いやあ、私たちの食い違いなんてもうたいしたことじゃない、もうすぐみんな死ぬのだから」。これが私たちの状況です。水不足という名の彗星が迫っているのです。

グレイク：気候変動は現実の問題です。人間が気候を変化させています。私たちはすでにその証拠を目にしています。気候変動の最大の影響のひとつは、水資源に現れるでしょう。

マッカリー：地球温暖化による洪水や旱魃、さまざまな社会的激変などで大勢の人々が死んでいくのを目にすることになります。さらに不幸なのは、いまではこうした事態への認識は高まっているものの、その認識すら、あまりにも多く企業利益に利用されてしまうことです。

水がなくなってきている、水の管理のされ方はひどいから多額の投資が必要だ、と人々は考えます。ところが、ここで、話がすり変わる。それじゃ、民営化しなくては。民営化すれば、利用が効率化されて皆が得をする、と。まったくもって馬鹿げています。こういう連中が考えているのは、明らかに金儲け、水を売って儲けることだけです。

バーロウ：民間企業は、水を公開市場で売買することに決め、利益を得ようとしています。他の売り物の商品と同じように水も商品化されてしまうのです。

レポーター：水は今や、4000億ドル規模のグローバル産業で、電気と石油に次ぐ第三の巨大産業です。

水道会社幹部：地図の緑の部分を買い上げました。青の部分も。黄色は半分手に入れました。

バーロウ：市場に道徳はありません。率直に言って市場は、人を水の汚染と資源不足につけこむようにしむけます。必要とする人ではなく、買える人に売るようになるのです。

ロッド・パースリー：今後20年で、水業界はグローバル経済の2～3倍の速さで成長するでしょう。我々が使う水の処理、配給、監視をおこなう企業を買うことは、この先10年かそれ以上にわたって有望な投資となるでしょう。

ブーン・ピケンス：水は空気のようなものだとよく言いますね。空気に値段をつけますか。もちろんそんなことはしません。水にも値をつけるべきではないのです。今後に注目です。

<映画ここまで>

危機にさらされている水資源

グッドマン：イレーナ・サリーナ監督の記録映画『FLOW　水への愛』からの抜粋でした。このドキュメンタリー映画は、水の正義を求めるグローバルな運動のリーダーのひとり、モード・バーロウさんにスポットを当てています。バーロウさんはカナダ最大のアドヴォカシー団体である「カナダ人評議会」の代表で、「ブループラネットプロジェクト」の創設者です。16冊の著書があり、最新刊は、『ウォーター・ビジネス：世界の水資源・水道民営化・水処理技術・ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』です。ファイアハウス・スタジオにおみえです。ようこそ。

バーロウ：こんにちは。

グッドマン：水資源危機についてお話しください。水はどこへ行ったのですか？

バーロウ：私が世界に向かって訴えたい最も重要なことは、こうです。私たちは気候変動のことはよく耳にしている。温室効果ガスが気候変動を引き起こしていること、それが水に影響を与えていること、氷河が溶けていっていることなどです。それが実際に起きていて、耳にもして

います。でも、この本では、そうした論議に新しい視点を提起しました。いわば水についての「不都合な真実」です。水の濫用、汚染、誤ったあるいは不適切な移送、そして誤った管理が、今日の気候変動の原因のひとつであるという見方です。まったく別の視点で問題をとらえようとしています。

ごく簡単にいえば、こういうことです。私たちは地表の水を汚染してしまったので、地下から水を汲み上げています。地下や未開地、河川流域から水を採取し、好きなところに移送して、巨大都市に水を供給しています。都市で使った水は海に排水するので、河川流域に戻ることはありません。また、保水性の高い土地を舗装してしまうため、本来は循環すべき水が、元の場所に戻らなくなります。私たちは、水を使って育てたり生産したりしたものを輸出する、「事実上の水貿易」を行っています。米国では、こうして毎日、国内で使用する水の３分の１を輸出しています。そんなにたくさん水はないのに。

水は第三の巨大企業

グッドマン：輸出しているのは誰ですか？

バーロウ：主に巨大アグリビジネスです。水を使って生産した商品を大量に輸出しています。あらゆる国で行われていることです。オーストラリアもそうです。オーストラリアは水資源の壁にぶつかり、危機のまっただ中ですが、いまだに目に見えない形で大量の水を、中国などへ輸出しています。問題はそこです。私たちは皆、学校で水循環を妨げることはできないと習いましたが、それは真実ではありません。濫用と不適切な移送によって、水循環は深刻な被害をこうむっています。これを止めなければなりません。

グッドマン：どんな企業が、どうやって水利権を手に入れているのですか。映画とご著書で、このことに触れていらっしゃいますね。ミシガン州で争いが起きているそうですね。カリフォルニア州の企業が水をタダで手に入れ、それを売っているそうですが、どういうことですか？

バーロウ：ええ、基本的には、水がたくさんあるのなら、誰かがそれで儲けてもかまわないと思います。けれども私たちは、水が枯渇しかけた世界に生きています。水を使い尽くしかけているのです。この点をはっきりさせたいのです。米国でも至る所で水が尽きかけています。これは周期的な干ばつではありません。私たちが行動を改めないかぎり、世界の多くの場所で水が無くなります。

先週出たレポートによるとミード湖は13年もすれば枯渇してしまうそうです。ラスベガスとフェニックスへの水供給をバックアップしている巨大な水源です。これは危機的状況です。コロラド川は、「壊滅的に縮小」しています――科学者の言葉ですよ。これは定期的な干ばつでないことを理解する必要があります。

だとすれば、誰が水を所有し、管理するのかという問題が重要になってきます。水の未来を決断するのは誰なのか？現在、何が起きているかというと、多くの企業が水産業に参入し、ちょうどエネルギー産業で石油カルテルがすべての石油を採掘前の一滴にいたるまで管理しているように、地球規模の水カルテルをつくりあげました。これらの企業は、ヴェオリアやスエズ［注[1]］のような大水道事業企業で、自治体の水道システムを営利目的で経営し、第三世界では使用料を払えない何百万の人々に対して水道の利用を拒否しています。

また、ペットボトル水も問題です。昨年、世界中でペットボトルに詰められた水は、500億ガロンにのぼりますが、ボトルはそこらじゅうにポイ捨てされています。

グッドマン：土に還らない物質ですね。

バーロウ：ほとんど生物分解されません。約95パーセントはリサイクルもされていません。けれども最近この分野に進出した新顔の企業は、水の再利用・リサイクル企業です。世界最大の水企業は、おそらくゼネラル・エレクトリック社でしょう。意外でしょう？ダウケミカル社も…

グッドマン：ゼネラル・エレクトリックはNBCの親会社ですね。

バーロウ：ええ、そうです。

グッドマン：ほかにも子会社がたくさんある。

バーロウ：ゼネラル・エレクトリックは、水リサイクル産業で重要な存在になりつつあります。ここははっきりさせておきたいのですが、もちろん、水リサイクルにはたいへん重要な役割があります。でも…

グッドマン：水リサイクルとは？

バーロウ：水リサイクルとは、下水を飲料用にリサイクルする再生か、海水の淡水化です。水リサイクルにはさまざまな形態があり、一大産業です。水産業の中でも急成長著しい部門です。汚水を浄化するのです。

私が懸念するのは――その懸念は調査すればするほど高まります――米国は特にそうですが他の国々でもまた、政府の水資源対策が、節水や水源の保護に向かわず、この汚水浄化事業ばかりに集中していることです。いまやっているのは、水が汚染されたら、それを浄化すればいいという発想です。こうすれば、ぼろ儲けできます。私の懸念は、それを誰が取り仕切るのか？水そのものは誰が所有することになるのか？ということです。コカ・コーラ社が販売する水は同社が所有しているというのなら、ゼネラル・エレクトリックやスエズだって、「私たちがきれいにした水は我が社のものだ、どれだけ儲けるか、どう配分するかは、自分たちで決める」と言えるでしょう。これは水の支配の問題ですが、もう一方で規制に関する支配の問題もあります。

---

[1] フランスのヴェオリア社とスエズ社は、オーストラリアのテムズウォーター社と共に、世界最大級の巨大水企業で「水メジャー」と呼ばれる。共に自治体や産業分野に向けて上下水道・工場用水処理などの事業を展開する。給水人口は、スエズ社が１億2500万人、ヴェオリア社が１億800万人といわれる。

国家安全保障と直結

バーロウ： 私がたいへん驚いたことのひとつですが、６年前、『BLUE GOLD-独占される水資源』という本を書いたときには米国の連邦レベルでは、水が危機に陥っているという認識はまったくありませんでした。ところが、今では水は、国家の安全保障問題の最重要事項に浮上しました。米国はエネルギー資源同様、水資源について不安を感じ、新しい安定した水源を世界中で探しています。

これは中国でも同じです。中国も水を探しています。中国は世界中に輸出する運動靴や玩具などを生産するために、自国の地下水面を破壊してしまいました。川の流れを変え、作物や人間のために使うべき水を生産に回したのです。現在、中国はチベットのヒマラヤまで長大なパイプラインを建設しようとしています。アジア全域を潤している源流から水を採取しようとしているのです。水戦争の勃発を見たかったら、あの地域から目を離さないことですね。

でも、同じように米国も明らかに、カナダやラテンアメリカのグアラニ帯水層［注[2]］の水源に目をつけています。米国は水の確保を、エネルギーと同様国家の安全保障の問題と考えています。これらの基本的な資源を失えば、超大国ではいられませんからね。これは、避けられない問題です。そのため、水は突然、重要事項になりました。

グッドマン：モード･バーロウさんにお話を伺っています。最新刊は、『ウォーター･ビジネス：世界の水資源･水道民営化･水処理技術･ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』です。ご著書に出てくる「水の狩人」とは何ですか？「水の戦士」についても語っていらっしゃいますね。

バーロウ：水の正義を求めるグローバルな運動を説明するために私たちが使う言葉の一つです。すばらしい運動です。私たちは、途上国の人たちと協働しています。また、北米とヨーロッパ全域各地のコミュニティ、地域の水を自ら管理するために、企業と闘う人々と共に活動しています。現地のペットボトル水企業と戦うメイン州フライバーグや、大企業が侵入し地域の水を奪おうとしているカリフォルニア州のマウント･シャスタなどです。インドでも、いくつかのコミュニティがコカ･コーラ社を追い出しました。私たちは世界中で、巨大な水多国籍企業と戦う人たちのために働いています。これらの企業は地域に進出し、水を営利システムで経営し人々の家に――というか、たいていはスラムですが――メーターを取り付け、料金を請求します。私たちの運動は大成功し、水の正義を求めるグルーバルな運動が生まれました。

いまでは、世界銀行や世界貿易機構（WTO）、そして世界水会議［注[3]］を名のる団体――私は「水業界のボスたち」と呼んでいますけど――こうした組織はみな守勢に回っています。自分たちが推進してきた水の民営化策が大失敗なのに気づき、そのことを認めています。私たちは、行政が再び関与すべきだと考えています。公的管理、市民への情報公開と説明責任が必要なのです。

---

[2] グアラニ帯水層は、アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイの地下に位置する世界最大級の帯水層で重要な水源。世界の真水の3割があると言われ、世界に飲料水を200年間供給できるとも言われる。

[3]世界水会議（WWC）は、グローバル規模で水問題に対処することを目的として1996年設立された民間シンクタンクで、世界水フォーラム（WWF）を主催する。水道事業をグローバルに展開する水企業からの影響が強く、一部の利益を代表する民間シンクタンクが、閣僚宣言も出す世界水フォーラムを主催していることに、世界の市民団体から大きな批判があがっている。

ペットボトルの中身は？

グッドマン：ドキュメンタリー映画『FLOW　水への愛』から、ペットボトル水を扱っている箇所をご覧いただきます。

＜映画のシーン＞

エリック・D・オルソン：世界中の何百万もの人々がペットボトルの水を飲んでいます。水道水より安全だと思っているからです。食品医薬品局によれば、数百億ドル規模に達する米国のペットボトル水産業を規制監督する担当者は業界全体に対して一人未満です。つまり、その気の毒な担当者は複数の仕事を兼務させられ、その一つが水の規制なのです。食品医薬品局に、どのペットボトル水ブランドの中身を聞いても、「まったくわかりません」と答えるでしょう。

ペン・ジレット：まったく馬鹿げています。なぜ人々はペットボトル水に割り増しのお金を払うのでしょう？それを知るために、私たちはトレンディなカリフォルニアのレストランを借り切って、一本7ドルもの値段をつけた偽の輸入ミネラルウォーターを並べた、エレガントな水のメニューを印刷しました。私たちの水の給仕長が、最初のラッキーなカップルに、この特別な水のリストを見せます。

顧客１：「ロー・デュ・ロビネ」をいただこうかしら。

水の給仕長：「ロー・デュ・ロビネ」ですね？

顧客１：ええ。

水の給仕長：最高ですよ！

ジレット：「水道水」という意味のフランス語です。

顧客１：乾杯！澄んだ味わい。

顧客２：風味がいい。

水の給仕長：水道水と比較していかがですか？

顧客２：水道水よりずっとおいしい。

ジレット：このおしゃれな水の実際の出元はどこだったでしょう。レストランの中庭のホースです。

リー・ジョーダン：米国人の4人に1人はペットボトル水を飲み、5人に1人は、それしか飲みません。水は、すでにお金を払って買うものになっているのです。

氏名不詳：主要ブランドは基本的に水道水ですが、ガソリン以上の値段で売られていることも珍しくありません。

ジジ・ケレット：42回目の水道水への挑戦を行うために、今日はタフツ大学に来ています。

挑戦者：ダサニ・ウォーター[注[4]]は間違いなく水道水だと思った。

ケレット：彼らは水道水よりもペットボトル水のほうが良いと信じさせるために、年間数千万ドルも使っています。でもペットボトル水のほうがずっと規制が緩いのです。

オルソン：米国で販売されている100以上のブランドの、1000本以上のペットボトル水をテストしましたが、安全性、味、純度、どの点でも必ずしも都市の水道より優れているとはいえません。なかには高濃度の砒素や、有機化合物、さまざまなバクテリアが検出されたものもありました。私たちがサンプル調査したブランドの3分の1は問題がありました。ラベルには山の絵、中は水道水という例もあります。グレイシャーウォーターは、氷河水という意味ですが、フロリダ州の地下水から採取しています。山の純水と書かれているものもありました。挙げればきりがありません。マサチューセッツ州では、ある男性が、地質環境汚染指定を受けた施設のそばにある工業団地の駐車場に井戸を掘り、そこから水を汲み上げて、複数の異なった銘柄で売っていました。消費者たちは、どこから来たのか皆目わからずに水を買っているんです。

<映画ここまで>

グッドマン：新作ドキュメンタリー映画『FLOW　水への愛』からの抜粋でした。監督は、イレーナ・サリーナさん、プロデューサーはスティーヴン・スターさんです。モード・バーロウさんは、「フード・アンド・ウォーター・ウォッチ」の会長でもあります。残り時間30秒で、その活動について説明してください。

バーロウ：私たちは、ここ米国でインフラ整備のためのトラスト基金設立を推進しています。米国やその他の国々の汚水処理システムは混乱の極みです。「ボトルの外に出て考えよう」「水道水に戻ろう」といった、ペットボトル水に反対するキャンペーンも行なっています。ペットボトル水を出さないことに賛同するレストランも出てきています。特にカリフォルニアでは、海水淡水化工場とも闘っています。問題のある技術であり、失敗することは明らかだからです。水源の保護と維持管理に関してできることがもっとたくさんあると思います。

グッドマン：バーロウさんの新著は、『ウォーター・ビジネス：世界の水資源・水道民営化・水処理技術・ボトルウォーターをめぐる壮絶なる戦い』です。今日はありがとうございました。

バーロウ：お招きありがとうございました。

---

[4]「ダサニ」はコカコーラ社のペットボトル水のブランド名のひとつ。

翻訳協力：斉木裕明（字幕時校正）
編集協力：中野真紀子
編集：大竹秀子
レイアウト：マーティン・チエ
制作：デモクラシー・ナウ！ジャパン
©2013デモクラシー・ナウ！ジャパン
お問い合わせ　office@democracynow.jp

ニュースレター購読のお申し込みはこちらへ：http：//democracynow.jp/newsletter